

# 熱中症をおさらいしましょう



今年も暑い夏がやってきましたね。マスクミでも盛んに「熱中症に気をつけよう！」と言っています。毎年の事なので、すっかり熟知されていると思いますが、もう一度おさらいをしてみましょ。

熱中症の半分近くは室内で発症していますので油断は禁物です。室内はエアコンをつけて適温にしてください。水分補給は水だけでなく塩分も必要です。1リットルに対してどれくらいの塩分だったか覚えていますか？1g~2g(小さじ約5分の1)くらいが適当です。また、頭が長時間直射日光にさらされると、脳がダメージを受けて震えがとまらなくなってしまう。帽子も必需品です。汗が出たら濡れたタオルで拭きましょ。

もちろん寝不足や食事量の低下は起こりやすい要因となりますので注意してください。同じ条件でも、熱中症になるかどうかは人それぞれ違います。自分の体の事をよく知って対処してくださいね。自分でできる人は自分で気をつけて、そして、自分で調整できない方には周りの方が気をつけて。今年の夏も元気に楽しく過ごしていきましょう。

【伊藤 和枝】

## 新しい製品ができました・・・

いつもこだまの作業製品などを気にかけてアドバイスをいただいているお母さんから「朝の番組で、こだまのみんなが作れるようなアルミ缶を再生した物がでたわよ～」と情報提供をいただきました。

早速調べてみると、缶コーラや缶ビールのアルミ缶の底を切ってつぶし折り曲げて、表面をアンティークな色合いに染める『アルミ缶バック』というものでした。

簡単にできる事や、多肉植物などを植え込んで楽しむ方が多いようで人気の手作品でした。色付けも、アクリル絵の具をスポンジに付けてポンポンと表面をたたけば風合いのある色になっていきます。ほんと、こだまの利用者の方の作業にはピッタリの製品でした。

流木などの引っ掛けるもの付きで500円で販売中です。



# こだま通信

50号



【編集】 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西線島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

## 今年度は報酬改定が行なわれました

障害福祉サービスの報酬改定は3年ごとに行なわれます。昨年の年末のころより介護報酬が減額になるとの報道がされていきました。介護保険では2.27%の引き下げになっています。障害者サービスは減額は行なわれないうことでしたが、実際にはわずかですがサービス単価が下がっていました。処遇改善費の上乗せ評価などの処置が講じられましたので、実質的にはあまり変動が無い状況です。今回の改定の様子をこだまのサービスに関係する部分でお知らせしていきます。

**事業所の職員配置などを評価する体系へ・・・**  
 これまでも職員の有資格者の配置割合に応じて基準報酬に上乗せするかたちで加算される仕組み(福祉専門職配置加算)が取られてきましたが、25%以上で加算の対象となっていたものが35%以上の配置率があるより高い加算が付く体系に変更になりました。

福祉専門職とは、社会福祉士・介護福祉士の事をいいますが、こだまの職員は毎年資格試験に挑戦してまいりましたので、今では75%の職員が有資格者です。今年も資格試験に2名が挑戦中です。

また、生活介護では常勤看護職員配置加算が新設され、常勤で看護師さんを配置している場合は高く評価される仕組みになりました。こだまは開設以来、常勤で看護職員を配置してきまして、今回の報酬改定で対象になりました。

### 工賃向上にむけた新たな算定要件が・・・

就労継続支援B型では、工賃向上に向けた取り組みを推進するために、目標工賃達成加算が設けられていきましたがその要件が見直しになり、事業所の地域の最低賃金の1/2以上の工賃支給をしているとより高い加算対象になるようになりました。こだ

ま(ポレポレ)の場合には、現状では前年度の事業所の工賃実績をかるうじて上回るのが実態です。今後、より高い工賃が支給できるように販売力を入れていかなければならないところです。

### 事業所の経営努力が求められる・・・

具体的に報酬単価で見ると、居宅介護ではこれまで1時間の身体介護を行なった場合には、404単位だったものが今年度は388単位とマイナス16単位になりました。生活介護では、20~40名定員で障害支援区分5の方の場合、これまで883単位だったものが851単位とマイナス18単位になっていいます。就労継続支援Bは20~40名定員で526単位だったものが519単位とマイナス7単位になっていいます。

どのサービスも、若干の減額となっていますが資格者の職員配置を多くしたり、利用者への工賃支給を引き上げる事で「基本報酬+より高い加算」を受け取ることができるといわれています。一部にこうした成果主義的な報酬体系に批判はありますが、これからの事業所は、こうした状況をより見極め、経営努力をしていく事が求められているように思います。

【山田久】

# 生活介護の新しい拠点ができました

生活介護にほんごグループができて4年目を迎えます。事務所の1階部分を使って車椅子利用の方や医療的な配慮の必要な方達を中心に活動をしてきました。狭いながらも担当職員さんの工夫によってこれまで楽しく明るく活動してきましたが、この春から新しい利用者の受け入れにあたって、いよいよ手狭になり、以前児童デイサービスで利用していた事務所横にある、宅和ビルの1階2部屋を借りて大改修を進めました。

## ほんごの新しい活動拠点です

床は思い切って木のフローリングにしてもらいました。ナチュラルカラーで明るい感じです。車椅子の方でも、安心して過ごせます。またイスに座っても、寝転んでも自由に過ごせる空間になりました。

残念ながら、外からの入り口は階段になっていきますので車椅子ではそのまま建物に入る事ができません。今回は駅などで使われている専用の

長さ3メートルの軽量型スロープです



ペタペタ素足に優しいフローリングの床です。

入り口の床には5センチ程の段差ができましたが、手作りのスロープでらくらく入室ができるようになりました。

スロープを用意させていただきました。

# 今年のポレポレは・・・



今年度のポレポレは、松江養護学校高等部卒業生の2名を利用者に迎えたり支援スタッフ2名も替わったりとドタバタとした始まりになりましたが、調理スタッフのパートさんやこれまでの利用者のみなさんがテキパキと流れてそのって作業される姿に、いつの間にか通常通りのポレポレのお弁当屋さんになってきています。

このところ、ポレポレのお弁当は販売数が伸び悩み苦戦をしています。今年度は心機一転挽回を目指して始動しました。その一つが、月一回お弁当に折り紙とおたよりを添えることです。利用者の皆さんも折り紙作りを楽しみにされるようになりました。お弁当を食べただけの方にはポレポレの優しい気持ちをお伝えできればと考えています。また、すぐに手に取れるおにぎり作りにも挑戦しています。お弁当だけでは物足りない方や、ゆっくりに購入していただける方、夕方のチャットお腹が減った方などに購入していただけるのではないかと期待しながら試作中です。ぜひ皆さんよろしくお願います。



# 2014年度・事業決算報告

2014年度は、生活介護事業では2名の新規利用者がありましたが、就労継続B、ホームヘルプ事業で前年度を若干下回る決算状況になりました。年度末には、新しい生活介護の拠点の建物の改修を行ないました。

## 【2014年度・事業収支報告】

単位 (千円)

収入の部	支出の部
1.生活介護事業 55,428 ( 3,022)	1.人件費 75,801(△3,443)
2.就労継続B 12,999 (△1,132)	2.その他の経費 23,537(△1,514)
弁当販売事業 7,583 (△ 836)	3.弁当製造原価 7,127(△ 69)
3.居宅介護事業 27,916 (△5,754)	合 計 106,511 (△4,981)
4.その他 1,881 (△ 197)	
合 計 105,809 (△4,896)	当期経常増減 △701

## 【2014年度・貸借対照表】

単位 (円)

資産の部	負債の部
1. 流動資産 20,793,933	1. 流動負債 341,000
2. 固定資産 10,000,000	2. 固定負債 0
合 計 30,793,933	合 計 341,000

流動負債は未払いの法人市民税等で

## 今年のほんそごがめざすもの・・・

ほんそごグループは、4月から事務所横にあるビルの一階を改装した場所で、新しい利用者さんを2名迎えて活動しています。ほんそご1、ほんそご2が一緒になって利用者の方は14名になりました。利用者が増え、パワーアップしたほんそごは毎日笑顔に溢れています。

ほんそごグループの合い言葉は『季節の活動をしよう！』私たちは四季を感じる活動を大切にしています。5月には田植えを経験しました。一人ひとりバケツを用意して、土と水を混ぜ混ぜして泥作りから始めました。苗を手を持ってもらい一緒に泥の中にズブリ！と差し込みます。ベチャッとした泥の感触・・・皆さん色んな表情を見せて下さいました。笹巻作りも行いました。笹は採ってるところから始まりです。綺麗な笹をとってきてから水できれいに洗います。みんなで作る笹巻はとってもおいしかったです。順番に釣竿を持って池に投げ入れられます。ぐぐぐとひく感触は何とも言えません。釣ったヤマメをその場で焼いてもらいバクリ。はじめて食べたという方も沢山おられにっこり笑顔でした。6月にはホテル見学を家族さんにも呼び掛けて行きました。沢山のご家族さんの参加があり、交流の場にもなっていました。この声も頂きました。最近ではヤマモモを採りに行ってジャム作りもしました。これはもう、大絶品でした。ヨーグルトに混ぜたり、アイスクリームに混ぜて食べるとほっぺたは落ちるほどでした。このように活動を通して四季を五感で感じてもらえるようにと思っています。

なかなか自分では気持ちを表現できない方もおられます。しかしこういう活動の中で見せて下さる楽しい、心地良の表情が見れるととても活力になります。これからもほんそごグループならではの活動を計画して、みなさんと一緒に楽しく活動をしていきたいなと思います 【日野純子】



## ホームヘルプ担当になりました・・・

今年度からホームヘルプの担当になりました。よろしくお願ひします。これまでも夕方方の時間や土日の移動支援にも関わらせてもらっていたので大きく変わった感じはあまりありませんが、パソコンをよく使うようになった事と利用者の方への連絡や調整などもするようになりました。不慣れな点もあり失礼もあるかと思いますが、その都度ご指摘いただきご指導をお願いします。

これまでは移動支援には入らせていただくことがほとんどでしたが、この度、居宅のサービスのたくさん入らせてもらうようになりました。利用者の方のご自宅に入らせていただき、入浴介助や起床のお手伝いや食事介助などをさせて頂いた機会をいただいています。サービス提供するのは利用者の方ですが、家族さんとの関係もとても大事になってきます。利用していただく本人さんに安心してもらうことはもちろんですが、そのご家族の方にも安心して任せていただけるようにならなければいけません。その時間がご家族の方にとって介護の軽減につながる時間になります。その部分をとても大切に考えるようになりました。

家族さんとの関係、利用される方の兄弟さんとの関係。うまく出来ているかは自分でもわかりません。先輩の職員さんと一緒に行くところ、なるほどと思うところや、こまやかな気配りの大切に気づかされます。少しでも近づけるようになりたいと思います。また信頼関係は一人では結ぶことができません。利用される本人さん、また家族の方に信頼されるベストなヘルパーを目指し日々勉強していきたいと思ひます。 【井川 樹】

## 大きなお風呂もできました

生活介護では必要な方に入浴サービスを実施しています。これまで仰臥位での入浴の方は簡易浴槽をご利用してもらっていましたが、今回の改修にあわせて介護用の大きな浴槽と広い洗い場、脱衣場を設置する事ができました。これまでに以上に楽しい入浴の時間になると思っています。



浴槽の前後にスペースがあり、同時に介助ができるようになっています。

これまで脱衣場は洗面所と洗濯機が置かれてきたので狭い場所がより一層狭くなっていましたが、今回は広い専用の脱衣スペースも取る事ができ、また横になって着替えができる移動式の台も用意しました。



脱衣場は広くて使いやすいくなりました。利用者の方、介助の職員2人が入っても大丈夫です。

洗面台も二つ用意しました。お気に入りのコップと歯ブラシチェーブを用意してもらって、食後の洗面の時間が楽しくなればと思います。



お手洗いも、車椅子で中まで入れる広さのスペースを用意しました。トイレに入っている介助も、より一層しやすくなっています。



## 今年度の支援で大切にしたいこと・・・

一人ひとりのペースにあわせられた取り組みを大切にします。  
長期的な視野に立った、日々の取り組みを大切にしていきます。

今年度の新体制になり3ヶ月がすぎ、ようやく慌ただしさも減って落ちついた活動の報告や楽しんでいる様子をよく聴くようになっています。

たとえば、ある方は、言葉のバリエーションやその場にに応じた会話ができる場面が増えた/下駄箱に雑音にくつをしまえるようになってきた/自分の好きな音楽だけでなく、さまざまなジャンルの音楽を聴いてもおだやかに過ごせるようになった/活動を楽しみに待つ姿勢が見られ、意欲的に活動されるようになった/日々の心身の状況を把握することで、早い段階で不調にならないよう配慮ができるようになった/自らが考え、ステップアップして就職したいという夢を描くようになった/



このような報告に、共通していることに「継続してかわかること」があげられます。支援者が思う個人的な価値観や理想をかかげず、けしてこうしなさい、ああしなさいと言わないのがすてきな支援だと思っています。利用者がすすんで動けるようになるためには・・・いろんな働きかけの中から、本人がやる気になったり、いろんな場面で同じことをしたり、気づきとなるヒントを会話にちりばめたり、とにかく楽しい活動をたくさん用意することなど。日々の何気ない中にちりばめてあるからこそ、すこし時間や月日がたつていくと分る「成果」がみえてくるのだと思います。

どんな障がいがあっても、いくら年を重ねても、人は成長します。一人ひとりにそれぞれ成長のステップがあつて、短い人も入れば、ステップが長い人もいる・・・支援の大切なアプローチとして以前聞き覚えがあったことがあります。そんな視点をいつも忘れずに過ごしたいのです。その人が望む生活に近づけるように、私たちは長期的な展望も視野にいれた上で、日々の取り組みをしていく必要があります。

だからこそ、日々の関わりの中で、ちよつとした気づきに対応していくことや、専門的な支援として知識をつけ、支援者としての技量をあげることや、テンポよく支援ができるように事前準備をしたり、「おお楽しそう!」「わたしにもできるやりかた!」「今日は何をやるんだらう?わくわく」「いっしょにやってみよう」と利用者を感じ、人を惹き付けることができる楽しい活動を提供することも大切になるのだと思います。

こどもが活動を始めて12年がすぎました。こどもの活動や支援において成熟していく時期にきていると思うのです。先般、来春の利用の相談をうけました。こどもを卒業後の進路に考えている親御さんが口をそろえて同じようなことをいわれました。「こどもにぜひ通わせたい」「こんなに楽しそうなおもてなしの表情があつた」「こどもがとても(実習)心待ちにしていて」「家庭では経験させられないような体験をした・いろんな反応がみられた」これからもこうした声・言葉が絶えないように。わたしたちができるすてきな支援を続けていきたいと思っています。

【川上太郎】

## 今年度の生活介護は・・・

今年度は新しい利用者も加わり(ほんそご利用)、職員も大幅にいれかわりました。前任者がいたときのほうが良かったと言われないように頑張っていきます。

『自分にしかできないことを発見!!そしてやってみよう!!』です。

前年度は、『より楽しく、よりアクティブに』を目標に掲げて魚釣りや、十山登山、グリーンカーテンなどにも挑戦しました。魚釣りでは回を重ねることに慣れてきました。はじめは、餌を入れたかごを海に落とすとすぐに竿を引き上げていたものが、『まだよ、まだよ』と何度も言って、魚が釣れる回数が増えるにつれ、海の中に入れたかごをすぐにひきあげなくなりました。十山登山では険しい山もどんどんと登っていきけるようになりました。



そういう活動の中で一人ひとりができていた活動を、今年度はさらに広げていこうと考えています。さらに、楽しい活動だけでなく、作業の場面でもできることを増やしていこうと思っています。そのためには職員一人ひとりが目を光らせてそれぞれの動きを注意深く観察していかないとはいけません。一人ではわからなかったことが、みんなの目でわかることもあるかと思っています。そういうこまやかな支援に気を付けて今年度もがんばっていきたいです。

【田崎優】

## 今年の行事予定

毎年たくさん家族のみさんに楽しんでいただいているNPOこどもの行事ですが、今年度は、それぞれのサービスマン部でのお楽しみ企画のほか、行事部が行なう全体の行事を下記のように計画しましたのでお知らせします。

毎年好評のこども屋台村

9月27日(日)開催します。

ミニ運動会

10月12日(日) 体育の日に開催します。

昨年好評だった

クリスマスキャンダルナイト

12月23日(水)開催します。

初めての試み

大餅つき大会

1月11日(月)開催します。